

2020 年度

事業計画書  
収支予算書

自 2020 年 10 月 1 日

至 2021 年 9 月 30 日

一般財団法人 Y S 市庭コミュニティー財団

## 2020 年度事業計画書

(2020 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日)

2020 年度助成事業（2021 年 9 月期）は、当財団 HP [<http://ys-ichiba.org/>]並びに公益財団法人 助成財団センターの HP [<http://www.jfc.or.jp/>]に助成募集に関する掲載をし、並行して財団役員並びに事務局スタッフによる応募要綱の説明を随時、実施しました。

### 応募要項の主旨

私達は日常の生活において、大きかれ小さかれを問わず、何らかのコミュニティーに包まれていることにより、お互いの意思疎通を円滑にした生活を過ごすことが出来、そのコミュニティーのお陰で、相対的な意思の合意形成を心がけることができます。

弊財団の助成にて、新たなコミュニティー育成、および醸成に励む諸団体の皆様方におかれましては、2019 年度期（平成 31 年 10 月～令和 2 年 9 月末）の前半においては事業活動を順調に行っていたものの、新型コロナウイルス感染を避けるため、2020 年 3 月以降に予定されていた事業活動に関しては、事業縮小の上実施、中止、延期とわかれしました。

この新型コロナウイルス病禍の推移いかんでは、全国の NPO 等が活動不全に陥る可能性もあり、弊財団としても大変な危機感を抱いている次第です。

そこで、今年度は新型コロナウイルス病禍により影響を受けた地域コミュニティーの修復を促す、といった NPO 団体の活動方策を重点的に配慮し、選考をすすめることにします。

- ・ 応募書類受付期間：2020 年 6 月 10 日(水)～7 月 31 日(金)
- ・ 選考委員会：2020 年 8 月 26 日(水) 13 時より  
於：太陽グラントソントン税理士法人 第 1 会議室

選考結果は：2020 年 9 月 25 日までに、全ての応募者に文書で連絡いたします。

2020 年度は、この選考結果に基づき、財団の事業目的に沿って、つぎの事業を実施する計画です。

◎ 事業内容

1. 助成事業

- 1) コミュニティー振興及びまちづくりに関する事業 → コミュニティー復興、再構築に関する事業（新カテゴリー化）

（助成対象先）

No.	団体名	事業名	助成金額
1	コーダー道場名護 代表者 安藤 元気	ヤンバル・子どもたちのためのプログラミング体験事業	20 万円
2	特定非営利活動法人 うきま.jp 代表者 佐藤 加代子	地域の取材を行い、SNS で公開し地域づくりに貢献する	30 万円
3	「みんなこ」 代表者 西村 忠祐	高校生による多文化共生のまちづくり	30 万円
4	NPO 法人 アクションポート横浜 代表者 高城 芳之	横浜アクションアワード 2021	50 万円
5	特定非営利活動法人 Akita コドモの森 代表者 小玉 朋子	親子で作るマスク&フェイスシールドと劇のワークショップ	24 万円
6	つきしみの学校 代表者 小林 遼	デジタルシステムに切り替えた青少年支援事業『今、わたしたちにできること』	80 万円
7	NPO 法人 元酒蔵の歴史的建造物群を保存・活用する会 代表者 庄司 恵雄	もっと知りたい、英知にあふれた津軽人の昔の暮らし～体験活動を通して自己の学びを深めるために～	50 万円
8	特定非営利活動法人 地球対話ラボ 代表者 小川 直美	気仙沼とインドネシアのつながりを生かして外国人が参画するコミュニティーをめざす事業	178 万円
9	特定非営利活動法人 NPO ホットライン信州 代表者 村上 晃	新型コロナに負けない！コミュニティーの創生	150 万円
10	早産児・低体重児・未熟児ちゃんママ交流サークルしずくの木 代表者 漆畑 希望	低出生体重児と家族のための笑顔プロジェクト	20 万円
11	せんだいわらアート実行委員会 代表者 広瀬 剛史	2021 せんだいわらアートフェスティバル	76 万円
12	NPO 法人 青空保育ぺんぺんぐさ 代表者 森 耕太郎	「のびのび子育て」と外遊びの輪を地域に～オンライン講演会と外遊び体験会「あそぼう会」の開催～	20 万円

No.	団体名	事業名	助成金額
13	NPO 法人 アントレプレナーシップ開発センター 代表者 原田 紀久子	里山の恵みを届ける仕事体験 in 亀岡市西別院町	50 万円
14	シメサイ実行委員会 代表者 菅原 太	志免祭 国際コメディシアターフェスティバル 2021	75 万円
15	特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク 代表者 生重 幸恵	小中高校生のための「伊藤研修センター」の特徴を生かした体験学習推進事業	126 万円
16	スペシャル・アート・ファクトリー (Special Art Factory) 代表者 井上 尚子	アートを楽しむインクルーシブな場づくり	14 万円
17	NPO 法人 体験型安全教育支援機構 代表者 清水 奈穂	分散型授業下における通学路の地域見守り活動の推進	50 万円
18	特定非営利活動法人 いろどりライフ 代表者 森内 卓爾	多世代参加型居場所「通いの場」継続事業	20 万円
19	特定非営利活動法人 トッピングイースト 代表者 清宮 陵一	トークプログラム『隅田川自治β』	100 万円
20	NPO 法人 音まち計画 代表者 岡部 修二	アートアクセスあだち 音まち千住の緑アサダワタル「声の質問」	90 万円
21	特定非営利活動法人 コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT 代表者 小山 淳子	With コロナ時代の孤立化する高齢者の見守り事業	60 万円
22	「鹿野の風」プロジェクト 代表者 福田 清治	里山まるごと雑木と花による木漏れ日計画	100 万円
合計 (22 件)			1,413 万円

2) 社会教育及び文化・スポーツに関する事業

(助成対象先)

No.	団体名	事業名	助成金額
1	一般社団法人北海道健康医療フロンティア 代表者 吉木 敬	日本総合医学会第14回北海道大会	35万円
2	一般社団法人北海道フロアボール普及プロジェクト 代表者 梅田弘胤	フロアボールを全ての人に!	15万円
3	G音楽たい 代表者 土持 真一郎	過疎地認知症対策音楽療法活動	50万円
4	高千穂町吹奏楽連合会【tzedakah】 代表者 田端 歩	部活動における外部指導・ボランティア精神の醸成	70万円
5	つくば少年少女スポーツ障害予防研究会 代表者 岡本 嘉一	学童スポーツ選手の親に障害予防について科学的に正しい知識を提供する。 現場で医師がスポーツ検診を行う。	40万円
6	NPO法人 ゆめ希望 代表者 加藤 完二	豪雪地域におけるネガティブ払しょく事業	20万円
合計 (6件)			230万円

3) 防災講座・防災シミュレーション体験講座・お料理体験講座の開催助成

助成対象 6件程度 予算額 300万円以内

(助成対象先)

No.	団体名	事業名	助成金額
1	特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会 代表者 林 怜史	西日本以西における防災演習及び災害ボランティア	80万円
2	特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事 栗田 暢之	オンラインプラットフォームのコーディネート手法構築事業	150万円
3	特定非営利活動法人 咲良の会 代表者 代表者 大西 千佳	個別支援防災計画から見守り環境づくりを目指す事業	70万円
合計 (3件)			300万円

- 4) 体験学習（職場体験）に関する事業の助成  
助成対象先はありません。

## 2. 自主運営事業

知の冒険事業の実施

生涯学習講座の開催並びに当財団が考えるコミュニティー事業 予算 2 件 150 万円

この事業は当財団の理事並びに評議員の方々の豊かな見識とご縁を基に、助成先と共に考え、様々な社会的な課題を解決試行していこうという試みです。

### 1) 「お持ち込み講演会」

講演主旨、内容にふさわしいベストな形でお客様に聴いて頂きたいと考えております。  
また、講演会講師、テーマ主旨、会場地域等は、当財団のホームページに今後掲載する  
予定です。

### 2) 当財団が考えるコミュニティー事業

助成団体が考える社会的な課題を解く為の事業を共に考え解決策を試行する独自の取  
り組みです。

(助成対象先)

No.	団体名	事業名	助成金額
1	学びのクリエイターになる！ 実行委員会 代表 朝枝晴美	社会教育の再設計 Season2	100 万円
合計 (1 件)			100 万円

### 3. 2020年度助成金合計

No.	助成カテゴリー	助成件数	助成金額
1)	コミュニティー復興、再構築に関する事業	22件	1,413万円
2)	社会教育&スポーツ	6件	230万円
3)	防災関連&お料理体験講座	3件	300万円
4)	体験学習	0件	0円
5)	知の冒険事業	1件	100万円
合計		32件	2,043万円

総括： 本年度も沖縄から北海道まで全国津々浦々から応募を賜り、助成金交付応募総数74件と、昨年とほぼ同じ件数の応募を頂きました。様々な活動を行う各団体から助成団体を選考した結果、33件、2,073万円の交付実績となる予定です。

新型コロナ禍による激変した環境の基、今までの活動内容から一步踏み出して頂き、試行錯誤をされた諸事業団体の皆様に心よりの感謝と共に益々の活動の充実化を期待しておりますので、本年度も一年間お付き合いのほどをどうぞ宜しくお願い申し上げます。

この度、こうして助成をさせて頂く諸事業団体との交流を通じて、弊財団も知見、視野を広めながら、課題解決に携わり、共に歩んでいきたいと考えております。

以上